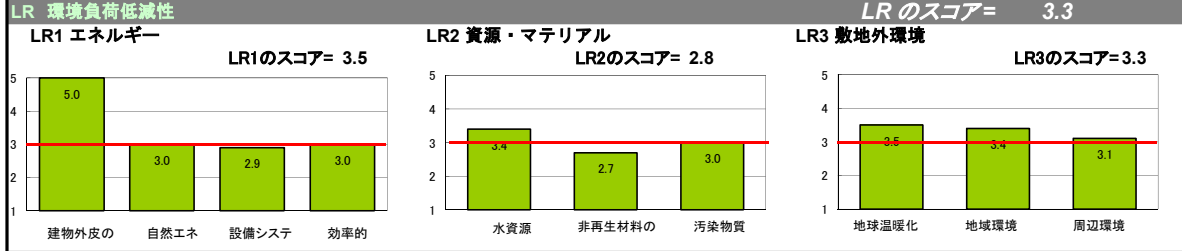
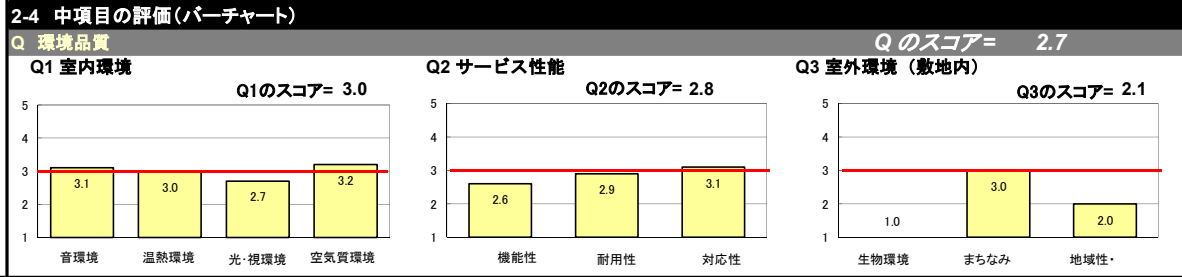
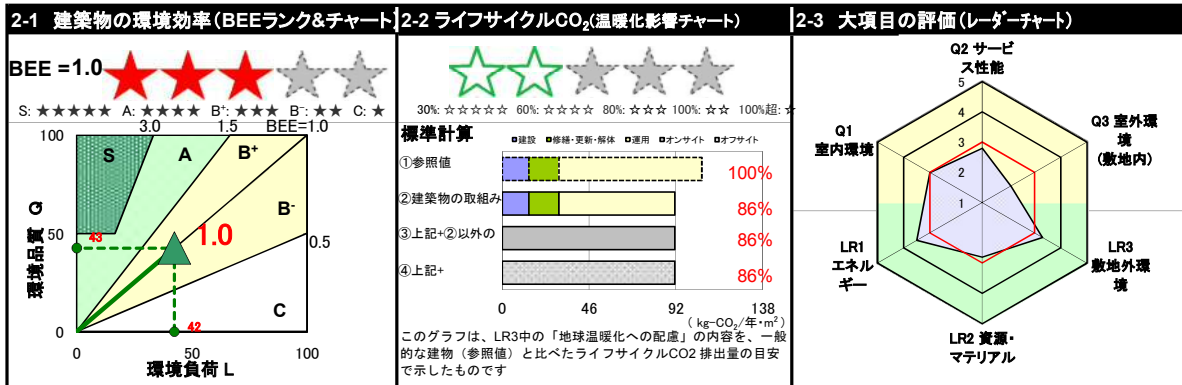


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	刈谷市南桜町オフィス	階数	地上3F
建設地	愛知県刈谷市	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年5月 予定	評価の実施日	2017年11月7日
敷地面積	1,941 m ²	作成者	古谷 渡
建築面積	1,148 m ²	確認日	
延床面積	3,382 m ²	確認者	



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>5.4 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.7	
Q1 室内環境														3.0	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.1	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.4	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														5.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														1.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														2.7	
3.1 昼光利用														1.8	
1 昼光率														1.0	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														3.2	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														3.3	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														4.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														1.0	
1 CO ₂ の監視														1.0	
2 喫煙の制御														1.0	
Q2 サービス性能														2.8	
1 機能性														2.6	
1.1 機能性・使いやすさ														2.6	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														2.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														2.3	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														2.0	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.5	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														4.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														1.6	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														1.0	
4 機械・配管支持方法														1.0	
5 通信・情報設備														1.0	

3 対応性・更新性				3.1	0.29			-	3.1
3.1 空間のゆとり		②	壁長さ比0.15 ※根拠資料より	3.4	0.31			-	
1 階高のゆとり				3.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.19			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.19			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.13			-			
4 通信配線の更新性		-	-			-			
5 設備機器の更新性		3.0	0.25			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.25			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40			-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.71	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.81	2.9	0.30			-	2.9
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型便器を使用 ※根拠資料より	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自		2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上の別が容易である	4.0	0.24			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			-	
3 冷媒				-	-			-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	CO2排出率が、一般的な建物と同様	3.5	0.33			-	3.5
2 地域環境への配慮				3.4	0.33			-	3.4
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用せず、大気汚染物質を全く排出しない	5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チャックリ外項目あり、かつ屋外広告照明無し	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

刈谷市雨後町オフィス

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:5.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	これはCASBEEあいち(2016年版)による評価である。
Q1 室内環境	T-2のサッシを利用することで、遮音性能を高めた。 F☆☆☆☆の建材をほぼ全てに使用した。
Q2 サービス性能	自然換気性能を高めると共に、執務室の天井高さを高くすることで快適性に配慮した。 標準的な維持管理仕様であるが、継続的に建物を利用していく上での、メンテナンスのし易さに配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺のまちなみや景観を損なわないように、標準的な設計とした。
LR1 エネルギー	外皮性能の向上と一次エネルギー消費量を抑えるように配慮した。
LR2 資源・マテリアル	解体時のリサイクルを考え、躯体と仕上材の分別ができるだけ可能なように配慮した。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を一切使用せず、大気汚染物質を敷地外へ排出しないように配慮した。
その他	特に無し